

大学婦人協会東京支部

2005. 3
第37号

- ・IFUW 総会に出席して
- ・2004年度全国セミナー報告
- ・相撲部屋を訪ねて

IFUW総会に出席して



JAUW副会長 田中 正子

二〇〇四年八月上旬にバースで開催されたIFUW総会に、JAUWの代表団の一員として出席した。今総会は、二つの点でJAUWにとって特筆すべき事があった。

第一は、青木怜子会長と房野桂女性地位委員会委員長が任期満了に伴い退任されたことである。青木会長は、一九九五年の横浜大会で副会長に選出されて以来、一緒に会員委員会委員に選出された房野委員ともども九年間IFUWのために尽くされたと同時に、JAUWの存在感を高めてくださった。

第二に、今度の総会では、日本からの参加者のために、本会議で特別に日本語の同時通訳がついたことである。財政の厳しい中からの配慮で

大変ありがたいことであった。

到着翌日の八月四日に終日行われた「コミュニケーション戦略」のワークショップに、JAUWから出席した。コーディネータのキャサリン・ロリラ副会長の周到な企画のおかげで非常に示唆に富んだワークであった。サポーターしてくださった、国際委員会の平川敦子さん、京都支部長の広田輝子さんに感謝。

八月七日の学際セミナーでは、「平和の文化」のセッションでコンビナーの藤村久美子さんの代理として司会をつとめた。発表論文の要旨は、IFUWのウェブ・サイトに掲載される。私の横でラボルツールとして終始サポーターして下さった槐田信子国際委員長、一日中参加して議論をリードしてくださった元IFUW会長のエリザベス・ボスキットさん、および日本からの参加者の皆さんに感謝。

八月九日夜には、国際奨学金授与委員会の初会合があった。

早春の澄んだ空気、夕暮れのスワン河畔の散策、海鮮料理とワインの夕食も、バースの想い出です。

事業報告・予定

6・28 旧岩崎邸見学
7・28 講演会「アフガン見たまま聞いたまま」

10・9 JAUW全国セミナーに参加
12・2 講演会「イサドラ・ダンカンと多元的知性」

12・18 第4回 自然科学講演会「物質世界の多様性についてー分子の形と運動ー」

12・18 第4回 自然科学講演会「物質世界の多様性についてー分子の形と運動ー」

12・18 第4回 自然科学講演会「物質世界の多様性についてー分子の形と運動ー」

12・18 第4回 自然科学講演会「物質世界の多様性についてー分子の形と運動ー」

12・18 第4回 自然科学講演会「物質世界の多様性についてー分子の形と運動ー」

12・18 第4回 自然科学講演会「物質世界の多様性についてー分子の形と運動ー」

12・18 第4回 自然科学講演会「物質世界の多様性についてー分子の形と運動ー」

12・18 第4回 自然科学講演会「物質世界の多様性についてー分子の形と運動ー」

以後の事業は追ってお知らせします。

二〇〇四年度全国セミナー報告

(04・10・9・10)

支部長 佐々木 澄子

関東直撃の台風のさなか、「グローバルな21世紀を生きる—平和・平等・教育の視点から—」のテーマのもと、来賓二名、パネリスト四名を迎え、全国から一三五名の会員が参加の全国セミナーが、国立女性会館（スエック）で開催された。

一日目は、「I女性と教育—人間の安全保障・平和の視点から、IIジェンダー平等のこれからの課題、III平和構築へ向けての多文化理解と相互

交流、の課題のもと、四委員会、七支部が研究発表。いずれも準備も充分、昨年に増してパワーポイントを駆使の発表であった。

昼食後のパネルディスカッションは、「女性と平和—西アジアとの関わりの中から探る」とのタイトルで、中東問題は人の人ならではの板垣、片倉両氏、若く鋭い問題提起のアレズ氏、実践を通じての生々しい報告の田村氏の白熱した討議を今井会長がよくまとめられ、日本にとって速い西アジアに、切迫した問題が生じていることをひしひしと感じるとともに、平和について再考させられた。

夜の懇親会は和やかな雰囲気の中で行われ、地方支部の皆様の本部と足並みを揃えたいとの活発な発言、行動が印象的。東京支部は本部と密接な繋がりがあり、その利点と、今更ながら責任の重さを痛感した。

二日目は、分科会、報告、IFUWのメッセージと報告、そして全体討議で締めくくられた。文科省の助成金によるスエックでの全国セミナーは今回が最後とのこと、古くからの会員のかたがたの発言も多数ありJAUWの歴史を再認識した。東京支部は、研究発表には参加できなかったが、前日から三日間の会



場準備、バザーなど参加委員からは実りの多い時間であったとの報告。台風の襲来もあり、多くの支部会員の

参加が望めず、残念であったが、「平和」「平等」「教育」の問題を、改めて各自に取り組んでいただきたいと感じた。

全国セミナーに参加して

今年度の全国セミナーは、例年の如く武蔵嵐山の国立女性教育会館で一泊二日の日程で開かれましたが、あいにくの台風の襲来と重なってしまいました。交通機関も止まり、来ることができない人、また帰ることができない人が多数出てしまいました。それでもグローバルな21世紀を生きる—平和・平等・教育の視点から—というテーマのもとに、予定

通りの研究発表がなされました。私が出た会場では、質の高い発表と皆様方の熱心な発言、討論がなされ、さすが大学婦人協会と感激致しました。

また、午後のパネルディスカッションでは「女性と平和—西アジアとの関わりの中から探る」ということで、普段知ることの少ないイスラム世界の様子や、女性の生活、教育、留学生の事など知ることができ、大変有意義で興味深いものでした。

平和を実現するためには、行動すること、具体的に何かをすることが大事だと痛感致しました。

全国セミナーが、この国立女性会館で開かれるのは今回が最後ということ、とても残念に思いました。交通はかなり不便な所ですが、大きな木や、多くの緑に囲まれ、日本庭園もある恵まれた環境は、心と体もがあります。宿泊棟での夜のバジャマパーティーでは、会員の方々の普段とは異なる思いがけない一面を見て、楽しい時を過ごすことができました。台風で落ちた沢山のどんぐりや黄葉した葉を踏みながら、またいつか、ここへ来ることがあるだろうかと思いました。

(田辺 範子)



アフガン見たまま

聞いたまま

講師 菅沼 隆二氏

悠久のシルクロード。三蔵法師のインド求法の道、遙か遠い歴史をゆったりと巡りたいと夢見させてくれる西アジア。その広大な歴史の象徴「バミヤン大仏」が二〇〇一年三月にタリバン政権により爆破され崩落してしまった。このニュースには大ショックだった。国境が入り組み古くから文明の交流点、文明の十字路と言われているアフガンは異教、異民族がせめぎ合い日常的に様々な勢力の支配下に置かれ続けている。

多民族国家のアフガンは外圧、内圧と争いが続き、国土の荒廃ぶりは私たちに容易に想像できる。一般外国人の立入りなどとても無理と想っていた。ところが崩壊直前の「バミヤンの大仏」を撮影され貴重な写真集を出版された菅沼隆二氏が九月に再度アフガンに行かれその後の話をしてくださるという。

菅沼氏は今回「カレズ会の会」(アフガンへの復興支援活動をしている会)のボランティアとして入国され、講演日二日前に帰国されたばかりとか。その上滞在中に傷めた足が途中

感染症にかかり当日は点滴を受けて足を引きずりながらの登場。危険地帯の旅の大変さが伝わり数々のエピソードが一層、臨場感のあるものになった。同行された山田氏も出席して下さり現像したばかりの映像を見せて下さったが、テロで戦々恐々の国とは思えないのどかさや明るさがあった。水不足を言われながらも川沿いの緑は濃く豊か。羊のむれが一杯の農村地帯とぶどう畑。破壊され無惨な建物ばかりの街並みには心が痛むがそこに暮らす子ども達のどの表情も活き活きと素朴で可愛らしい。

密入国者の生存率は五割とか、陸路では地雷、サソリ、毒蜘蛛に大注意とか、治安の悪さに加えて身が縮まる。しかし、これがアフガンの現状のようだ。権力闘争が一刻も早く平和解決して欲しいと思う。誰もが心ゆくまでこの地の人々と語り、旅することが容易になる日が来ることを心から願わずにはいられない。

(菅沼 紗知子)

旧岩崎邸見学記

梅雨の台風の六月二十八日湯島駅より徒歩数分の旧岩崎邸見学に、三十七名が参加致しました。

正門より続く坂道を登っていくとジョサイア・コンドル設計の洋館にたどり着きます。

洋館は近代日本住宅を代表する西洋木造建築。一七世紀の英国ジャコビアン様式を基調に、ルネサンスやサラセン風も採り入れられています。

玄関より一階ホールに入ると天井、柱、二階へ続く階段の手すりの細かな彫刻が見事です。二階にはそれぞれピンク、モスグリーンを基調とした女性用、男性用の客室、和紙を用いた金唐草にそっくりな金唐紙が部屋全体に貼られている客室など各部屋は壁の色も模様も全て異なり暖炉も完備されています。ペランダ

は高温多湿の日本の気候を考慮し造られたもので、二階の柱はイオニア式一階はトスカナ式で一階のペランダはきれいなサラセン風デザインの下で繋いだ和館であったそうです。

洋館は外国の要人を招いてのパーティーなどに使用され岩崎家の日常生活の場は洋館と廊下で繋いだ和館であったそうです。

和館は書院造りを基調とし、完成当時は五五〇坪あったそうですが、現存するのは四室のみです。書院には橋本雅邦の障壁画がありますが色が薄くなっているのが残念でした。建物全体は今では入手困難な素晴らしい材木が使われており、縁側に座り大きな庭石、手水鉢、大木のモッコクを眺めると落ち着くものがあります。庭先にはスイスの山小屋風の撞球室があり、洋館と地下で繋がっているという事です。規模は大分縮小されてはありますが、明治の財閥の生活は充分窺えることができます。約一時間半の見学の後、海燕亭で昼食をいただき散会致しました。

(今村 麻子)



UNHCRと

難民問題の講演会

阿部 幸子

日本国連U.C.R.協会プロジェクト・マネージャー中村恵氏から、難民問題をめぐってお話を伺い、平和について考える機会を与えられました。

中村氏は、一九八九年三月にUNHCR職員となられ、二〇〇〇年末に退職されるまでジュネーブ本部、東京事務所での勤務、ミャンマーでの援助活動などを経験された方です。

一九五一年の定義によれば、難民とは「自国の保護を受けることができない、あるいは望まないため国外に逃れた人々」であり、その人々への人道的支援が難民高等弁務官の任務です。その解決策は①本国への帰還、②庇護国への定住、③移民を経て第三国への再定住、のいずれかです。冷戦下とその後とは紛争の内容が大きく変化していますが、最近の発表によれば、バルカン半島への帰還が百万人に達し、また、一九九六年の支援対象者数二千六百万人から、昨年は千七百十万人にまで減ってきているそうです。しかし、冷

戦後の民主化、グローバリ化の中の不正の拡大は、新たな紛争を引き起こす原因にもなっています。それらは国家の安全保障だけでは解決しない問題でもあり、「人間の安全保障」という新たな概念が必要です。

人間の安全保障とは、「人々の生に」とってかけがえのない自由を守り、それを広げていくこと」であり、「人間の安全保障委員会」(二〇〇一から二〇〇三年)では緒方貞子氏とアマルティヤ・セン氏が共同議長となり、従来の「国家の安全保障」を補完するものとしての位置づけ、つまり「上からの保護」と同時に「下からの能力強化(エンパワーメント)」が必要だという理論が確立されました。緒方氏のJAIICA理事長としての仕事もこの実践の一つとなるでしょう。

中村氏の「私たちも国連の一部。そこでできることを心を込めてやる」という言葉を私たちも共有したいと願いつつ会場を後にしました。(東京支部は国連難民事務所に毎年5万円の寄付をしています。)

歴史の旅

―はるか昔千年のかたへ―

『源氏を読む会』の二度目の旅は伊勢から奈良へ、奈良歴史館、伊勢内、外宮、大野寺、室生寺、聖林寺、長谷寺、そして日本最古の道・山辺の道散策という坂上講師選りすぐりの中身の濃い三日間であった。

雨模様の伊勢神宮は深い緑の中しつとりと落ち着き、そこには日常とは異なるシンと気高い空間があった。

二日目は古くから室生寺に至る四つの門の西門である大野寺の弥陀磨崖仏を拝見した後、山深い室生寺へ。朱塗りの反り橋(太鼓橋)を渡って境内に入る。たくさんさんの国宝の中の一つ十一面観音は、いつまでも眺めていたい程優しさに満ちていた。平成十年の台風七号で損壊を受けたが今は修復工事が完了し、再び優美で端正な姿を取り戻していた国宝五重塔を見る事が出来たのは幸いであった。櫻井市観光課のお口添えで、寺の執事様のお話を伺えたのでより理解が深まったように思った。

長谷寺は「玉鬘」が偶然右近と出会い、共に参籠したところで、今回の旅で最も見たところであった。立派な仁王門を入りすぐ目に入る



長い登廊は二間ごとに吊さる灯籠と共にその建築の美しさに感嘆させられる。今でも目をつぶると、その長い登廊を登って行った本堂での若い僧達の朗々と響いていた経声と共に礼堂外舞台で見た長谷寺全景が蘇ってくる。

女人高野とも称される室生寺のしやくなげ、長谷寺の桜・牡丹・紅葉、色々の季節に、それぞれに一つの世界を持っている両寺に何度も足を運んでみたくなった。

三日目、山辺の道を歩きながら、この旅を介して、同じ目的で集まった仲間がより親しくなれたことが嬉しく、参加して本当に良かったと思ったことであった。

(片柳 洋子)

イサドラ・ダンカンと 多元的知性

「モダンダンスの母」と呼ばれるイサドラ・ダンカンの、舞踊と身体的芸術教育論に関する講演とパフォーマンスが、十二月二日津田同窓会館で催され、多くの聴衆がダンカンの幽玄の世界にしばし時を忘れました。

イサドラ・ダンカン国際学校芸術監督のジーン・ブレスニア博士は、時に椅子から離れ動きを交えてシュタイナー、ユング、フロイト、ガドナーの四人の心理学者の理論とダンカンの関連性を詳しく説明され、イサドラ・ダンカン国際学校日本大使の佐藤道代氏は、分かりやすく、それを日本語に直してくださいました。



講演の後いよいよダンスが披露され、身体の動きを通して、自然や感情を身近やかに表現するダンカンの踊りの真髄を身近に見ることが出来、至福のひと時をすごさせていただきました。風になって自然と共に歩めたら、素晴らしい日々を持つことができると実感いたしました。

(村木 晴子)

物質世界の多様性について

—分子の形と運動—

講師 平川 暁子

平成十六年十二月十八日午後十四時よりお茶の水女子大学理学部三号館において約二時間に渡り、大学婦人協会科学研究奨励委員会・東京支部・お茶の水女子大学共催の第四回自然科学講演会が開催された。

うらかな初冬の陽に銀杏の太木が美しく映える校内に約六〇名を越える参加者があり、当日の講師平川暁子先生の講演がなされ、活発な討論が行われた。平川先生は現在科学奨励委員会の委員長であり物理化学者として長きに渡り東京大学薬学部、ついで放送大学で奉職されてこられました。ご講演は「物質世界の多様性について—分子の形と運動—

—」という演題であり専門外の方々にも分かりやすく自然科学の世界を紹介されました。

先生は放送大学でのご経験をつまみだけあり、さすがに人を引きつける魅力あるご講演ですっかりお話に魅了されました。グランドキャニオンの美しい花々や景色、コロラド川の岩石など具体的な身近な例をとりあげながら、これらがどのような物質、分子からできているのだろうかという疑問から学問として取り上げられるようになったこと、さらに我々の体、生体も分子から成立しているという物質の世界の多様性について話され、サイエンスリタラシーへと展開された。ギリシア時代のデモクリトフ、アリストテレスについてアラビア科学圏での錬金術、アレキサンダー図書、そして歴史を変えたコペルニクスとヴェザリウスの2冊の教科書、さらにはラボアジエの物質保存の法則からダルトン、ファラデー、メンデレーフ、リービッチ、レントゲンなどなど物質科学発展の歴史を概観され、物質科学の社会への貢献の重要性について話された。少し残念に思われたことは参加者のなかに学生の姿が殆ど見当たらなかったことである。今後は会員関係

者以外の方々の参加者、特に一、二年生の学部学生さんなど自分の将来を模索している若い方々の参加を期待したい。

(中川 昌子)



相撲部屋を訪ねて

秋半ば、新小岩駅に近い中村部屋を、留学生とともに二十数名が訪問した。親方は元関脇富士桜で、派手さはないが手堅い取口で好感の持てるお相撲さんだった。おかみさんは、JAUWの会員の方で力士養成のあり方について研究され修士号を得られ、本も出版された。稽古が見られ、チャンコが頂けるというので、ワクワクしながら伺った。



玄関のフロアの向うに、上り座敷があり土間の力士達の稽古が見られ

る。十五歳位から三十代位の力士十五人位が、すり足アヒル歩き腕立伏せなどなど輪になって回ったり互いに押し合ったりしている。朝から何時間もの稽古で裸の体はピンクに染まり汗が光っている。留学生ともども「めずらしい」、「凄い」と連発。トイレに立った時、玄関の床で加藤さんとアヒル歩きを試してみた。三歩で疲れた。

十二時近くチャンコ番が作って下さったお鍋はか沢山のご馳走が運ばれてくる。肉、魚貝、野菜と沢山の具の入ったお鍋は美味しくて留学生方も感激して頂いている。親方と楚々とした美人のおかみさんが質問に答えて下さる。力士達は朝食抜きとのことやすり足は土俵の外に足が出る感触を知ることなど。

お行儀の良い留学生の方達、近々台湾に帰るジョさん、お母さんに良いお土産話が出来たでしょうか。

(田 律子)

力士と共に

中澤 嗣子

私が相撲部屋のおかみさんとして力士の養成に係わるようになって、はや十八年。年六回ある本場所相撲

に追われ、あつという間に月日がたつてしまいました。

現在は力士が十五名、それに行司と嚮を結う床山の二名を合わせ、総勢十七名の若い人たちと共に同じ家屋の中で生活しています。相撲部屋のおかみさんというと、力士の世話でさぞや忙しい毎日ですが、実際は食事の支度や掃除、洗濯など家事全般は、すべて力士が当番制で自分たちでしています。

では、おかみさんは何をしているかと言うと、普段は私の場合、食材の買い出しに市場へ出かけること、部屋の経理や事務といったことをしています。そのほか、力士が病氣やケガをしたときに病院へ行ったり、ときには、力士を辞めたい、実家に帰りたいと言いつつに相談にのつたりするのも私の役目です。

稽古に関しての指導は、もちろん親方がしますが、部屋での生活上の指導といふことになりますと、親方と私が話し合って、できるだけいい方法を考え、そして、実際にそれを行っていくのは、兄弟子たちということになります。相撲界は、日本の伝統的な縦社会と言えますので、とすると上のものの命令に有無も言



わせず従わせるようなトップ・ダウンの考え方が、人間性や個性の尊重を疎外するように考えられがちですが、そこに信頼で結ばれたしつかりした師弟関係があれば、弟子の主体性・自主性などが芽生え、大人へと成長していく姿が見られます。

しかし、力士の日々は、「このまま、本当に強くなれるのか」という自問自答の連続とも言えます。ほぼ身一つの状態で、自ら決断して入門してくる力士たちの気持ちは本当に尊く、これからも力士を大切に考えていきたいと思っています。

「新春のつどい」

若い女性研究者にエールを

一月八日、新年の最初を飾って京王プラザホテルで「新春のつどい」が開催された。「二〇〇五年を新しい気持ちで始めたい」という今井会長の挨拶の後、今年度国内奨学金贈呈式が行われた。受賞者は、一般奨学生五名、ララ・ホームズ奨学生一名、安井医学奨学生一名、社会福祉奨学生二名の計九名。研究内容は、宇宙船の保護にも使われる薄い膜の研究、開発途上国における劣悪な貧困に起因する児童労働問題を解決するための国際法の適用、科学技術の進歩がもたらした代理母をはじめとする親子関係の法律の整備、海外青年協力隊に参加した経験から、先進国の途上国への援助金の使われ方への法整備の必要性、体内の細胞間のネットワークの研究等、まさに現代を写すもので、若い女性研究者のエネルギとシャープさに強い印象を受けた。身体的ハンディキャップのために医学部入学を拒否された社会福祉奨学生の小澤美幸さんは、そのときの悔しい思いをばねに、「仕方がない」という言葉の持つ不条理を法律を通して解決してゆきたいと、弁

護士を目指す思いを語った。唯一の留学生の劉曉玉さんは、陶芸の保存・修復技術の研究を通して文化の多様性を学びたいと抱負を述べた。

受賞者のスピーチは、短い時間内容が凝縮されていて、どれも問題意識と自信にあふれ、門外漢の私たちをワクワクさせるものであった。

東京支部会員の小西厚子さんの心温まるサンソン・ミニ・コンサートの後、「大きな変化が予想されるこの一年に、世界の平和、心の平和を念じたい」という田中副会長の言葉で集いは終了した。

なお、今回のスマトラ地震・津波災害への義援金を会場で募り、国際委員会が現地へ送ることになった。

(早瀬 暢子)



※この奨学金の一部として、東京支部から十万円を寄付しています。

サークル紹介

英語講座

- 第一・第三金曜日

午前十時～十二時

- 大久保地域センター三階

- 講師・松本節也元法政大学教授

- 「さし絵入り英国史を講読中」

講師による詳細な訳註、ヒアリング用のテープ、参考資料をもとに

輪読しています。

メンバーを若干名募集中です。

- 連絡先・中山正子

(☎〇四五五四一一二四八二)

楽しい俳句会

- 第三水曜日

午後一時半～三時半

- JAUW事務所会議室

- 講師・柴崎富子会員

昨年七月に念願の合同句集「青胡

桃」を上梓することができ、良い

記念になりました。初心者も大歓迎です。

- 連絡先・小池朋子

(☎〇四五五九〇二一九七三〇)

- 源氏物語を読む会 (I)

- 第三・第四水曜日

午前十時半～十二時半

- 津田塾大学同窓会・会議室

- 講師・坂上栄美子会員

- 「柏木」の巻を読んでいます。

- 連絡先・平田宏子

(☎〇四一七一四三二一五七三)

源氏物語を読む会 (II)

- 第二・三・四水曜日

午前十時～十二時

- 津田塾大学同窓会・会議室

- 講師・坂上栄美子会員

「藤裏葉」の巻を読んでいます。

- 連絡先・中山律子

(☎〇三三三三三六四六二八)

フラワードesign

- 第三火曜日

午後一時半～三時半

- JAUW事務所会議室

- 講師・河井尚子会員

初心者歓迎、お花と向き合う時間を楽しみましょう。

- 連絡先・山崎邦子

(☎〇四五五八八一八九〇〇二)

- 会員相互の親睦をはかるために、

どのサークルも和気あいあいと楽しく活動しています。まだ、余裕があるところもありますので、ご入会希望の方は、係までご連絡下さい。

2005年
東京支部総会のお知らせ

・四月十六日(土) 一時～二時

・津田ホール内会議室(千駄ヶ谷駅前)

・記念講演 二時半～四時

「少子高齢化社会と女性問題」

講師 一番ヶ瀬 康子氏

日本女子大学名誉教授・長崎純心

女子大教授

(講師紹介)

一九五三年、日本女子大学、東洋大
学を経て長崎純心大学教授現在に至
る。一九八五、九四年第十三、十四、

十五期・日本芸術会議会員、一九九

七年、長寿社会文化協会(WCA)

会長

(著書) 21世紀社会福祉学、児童福祉

論(有斐閣) 他多数

日本の女性問題は少子化との関係

で考える必要があり、一方高齢時の

在り方にも影響します。主体的に問

題解決へどう取り組んでいくかを述

べます。とのメッセージをいただい

ております。少子化が日本の将来を

揺るがすかもしれないこの時期、非

常に興味を持たれます。

※記念講演には会員外の方も多数お

誘い下さい。参加費無料。

※総会のお知らせは別途郵送致しま

す。

2004年度東京支部新入会員 (敬称略)

(2005年1月現在)

氏 名	出 身 校	〒	住 所
芦 伊 知子	日 女		
沢 藤 寛子	敬 愛		
伊 藤 麻子	東 女		
今 村 啓子	ブリス		
入 澤 良子	トル大		
岩 田 章子	日 女		
常 川 子	東 院		
神 道 子	茶 茶		
栗 道 子	東京教育・サラ		
小 原 昭子	ローレンス		
児 林 英子	東 院		
塩 沢 典子	I.C.U		
竹 村 典子	高 知		
寺 内 直子	東 女		
中 川 昌子	北 女		
浜 田 香子	東 女		
濱 本 知子	奈 明		
東 津 子	茶 津		
星 野 翠子	京 都		
堀 内 子	京 聖		
峯 野 子			
山 下 子			
結 城 子			

謹 弔 (敬称略)

成 田 迪 子	実・東都院	2004年4月28日 逝去
---------	-------	---------------

★ご寄付いただきました。お礼を申

し上げます。

熊切富子氏

一万円

伊藤千寿子氏

一万二千元

山下玲子氏

一万五千元

本間紀子氏

千円

故江崎玲子氏ご遺族

五万円

源氏物語を読む会(Ⅰ)

五万円

源氏物語を読む会(Ⅱ)

五万円

フラワーデザイン

一万円

楽しい俳句会

一万円

英語講座

五千元

★寄付しました。

国内奨学金

十万円

国連難民高等弁務官事務所

五万円

本部財務委員会

五万円

(バザー収益金より)

★会費納入のお願い

会費未納の方は、用紙の裏の「私

い込みのご案内」を参照の上、早

めにお振り込み下さい。

★住所変更などのご連絡は事務所ま

でお願ひ致します。

★使用済みの切手、プリペイドカー

ドなど事務所までお送り下さい。

(編集後記)

国内奨学金贈呈式で奨学生の方々

のスピーチを聴き、その真摯な情熱

に感動いたしました。無事に37号を

発行でき、有難うございました。